

北九州市 学力・体力向上アクションプラン

第2ステージ

[平成31年度～平成33年度]

平成31年2月
北九州市教育委員会

目 次

はじめに	．．．	1
アクションプラン第2ステージにおける学力・体力向上の骨子	．．．	3
アクションプラン第2ステージの指標	．．．	5
アクションプラン第1・第2ステージ対照表	．．．	7
I 学力向上		
1. 本市の学力の現状と課題		
(1) 本市の児童生徒の学力の現状	．．．	11
(2) 学力向上に向けた現状の分析と本市の成果と課題	．．．	12
第1ステージ	【柱1】 全校体制でのP D C Aサイクルの確立	．．． 12
	【柱2】 指導力向上のための日々の継続的な取組	．．． 15
	【柱3】 学力定着に向けた協働的な取組	．．． 19
2. 具体的な学力向上の取組		
第2ステージ	【柱1】 全校体制でのP D C Aサイクルの確立	．．． 23
	【柱2】 指導力向上のための日々の継続的な取組	．．． 26
	【柱3】 小中9年間を見通した、児童生徒一人一人への きめ細かな教育体制の確立	．．． 31
II 体力向上		
1. 本市の体力の現状と課題		
(1) 本市の児童生徒の体力・運動能力、運動習慣等の現状	．．．	35
(2) 体力向上に向けた現状の分析と本市の成果と課題	．．．	37
第1ステージ	【柱1】 全校体制でのP D C Aサイクルの確立	．．． 37
	【柱2】 学校での授業の充実と運動習慣の確立	．．． 39
	【柱3】 生活習慣・運動習慣の確立に向けた協働的な取組	．．． 43
2. 具体的な体力向上の取組		
第2ステージ	【柱1】 全校体制でのP D C Aサイクルの確立	．．． 46
	【柱2】 指導力向上のための日々の継続的な取組	．．． 48
	【柱3】 生活習慣・運動習慣の確立に向けた取組	．．． 50
資料	学力・体力向上アクションプラン 第1ステージ 事業実績	．．． 54

はじめに ～アクションプラン第2ステージがスタートします～

<これからの時代を生きる子どもたちに求められる力>

現在、「人工知能（AI）」「IoT（Internet of Things）」等が著しく進歩しています。今後、それらの技術がさらに高度化され、あらゆる産業や生活に取り入れられた社会（Society 5.0）の到来も予測されています。これらの加速度的な社会の変化は、全ての子どもたちの生き方に影響するものであると指摘されています。

このような変化の中で生きていくこれからの子どもたちには、社会的・職業的に自立して生きていくために、①伝統や文化に立脚しつつ、高い志と意欲をもって、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断していくことや、②自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことなどが求められています。

そのためには、「何を理解しているか、何ができるか（個別の知識・技能）」のみならず、「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」といった資質・能力のバランスのよい育成が必要となります。

こうした新しい時代においても、職業の選択肢を広げて、夢や希望に近づいていくために必要な力を、北九州市の子どもたちに身に付けさせていくことは、21世紀を生きる子どもたちに関わる私たち大人の責務です。

<アクションプラン第1ステージを振り返って>

北九州市では、平成28年3月に策定した北九州市学力・体力向上アクションプランに基づき、学力・体力向上に取り組んできました。

学力向上については、「『わかる授業』づくり5つのポイント」が浸透し、学校として授業力向上に組織的に取り組むようになりました。「全国学力・学習状況調査」の授業にかかる児童生徒質問紙調査の結果が、この3年間で着実に向上しています。また、補充的な学習についても全校体制で取り組む学校が増えました。

体力向上については、成果が見られました。「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点は、この数年で大きく向上してきました。これは、各学校が課題をとらえた取組を推進している成果であるといえます。

学力・体力向上のどちらも、校長のリーダーシップのもと、スクールプランが推進され、学校マネジメントが機能した結果の成果です。

逆にいえば、こうしたことは、学校マネジメントが機能しないと教職員のベクトルがそろわず、効果的・効率的な取組となりません。本市の課題ともなりますが、全市的にみると、まだまだ学校マネジメントについては、各校が実態に応じて独自に推進する余地があります。学力・体力向上も調査結果等から各校の課題を洗い出し、全校体制でどのように課題を克服していくかは、校長のリーダーシップによる学校マネジメントにかかっています。

<これからの北九州市の教育の在り方>

授業に関しては、アクションプラン第1ステージにおいて、そのあるべき姿を示してきました。学力向上においては、基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、思考力、判断力、表現力等をバランスよく育み、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指してきました。また、体力向上においては、運動に親しむ資質・能力を育て、豊かなスポーツライフを実現する態度を育成しようとしてきました。これらをより一層推進していく必要があります。

そのためには、前述したように、学校としてスクールプランを基に、組織的に授業力向上や補充的な学習等に取り組むことが必要です。こうした学校マネジメントの推進を教育委員会全体として支援していきたいと思えます。

アクションプラン第2ステージは、第1ステージの課題を踏まえ、特に「確かな学力」と「健やかな体」の育成について、平成31年度から平成33年度までの3年間で重点的に推進する取組を示したものです。

未来を担う北九州市の子どもたちのために、今後とも、学校関係者、家庭・地域が一丸となって、より一層実効性のある取組を進めていきましょう。

平成31年2月
北九州市教育委員会

アクションプラン第2ステージにおける学力・体力向上の取組の骨子

＜第2ステージの基本理念＞

- 学校の実情に応じて，校・園長が主体的に学校マネジメントを展開する。
- 学校の主体的な取組を，教育委員会が全力で支援する。

【 学 力 向 上 の 取 組 】

【柱1】

全校体制でのPDCAサイクルの確立

＜PDCAサイクルに基づく学校マネジメントの推進＞

- 「スクールプラン」の策定・実施・検証・改善
- 「学校マネジメント支援訪問」の実施
- 各種学力調査等を活用した実態把握と指導の充実
- 北九州市教育委員会人材育成基本方針に基づく取組
- 県内外・市内視察の実施



【柱2】

指導力向上のための 日々の継続的な取組

＜よい授業のイメージの共有と，授業を「行う・見る・語り合う・振り返る」活動の日々の継続的な実践＞

- 授業改善支援訪問の実施
- 研修体制の見直し
- 「『わかる授業』づくり5つのポイント」の質の向上を図る研修の実施
- 学力・体力向上推進教員の活用
- 単元末テスト等及び定期考査の改善
- 教育センターの機能の選択と集中
- 「中学校外国語科」及び「算数・数学科」における取組

＜教育活動の一層の充実のための取組＞

- 学校図書館教育の充実と子ども図書館との連携
- 大学等の研究機関との連携
- 学校におけるICT環境等の充実
- 本市シビック・プライドの醸成
- 部活動休養日を活用した研修機会の確保

【柱3】

小中9年間を見通した， 児童生徒一人一人への きめ細かな教育体制の確立

＜校種間連携・特別支援教育の推進＞

- スクールプランを基にした，中学校区での目標・取組等の共有
- 小学校における専科指導の充実
- 学校支援講師の活用
- 幼児教育と小学校教育の円滑な接続
- 特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援

＜補充学習システムの確立と質の向上＞

- 北九州市学力定着サポートシステムを活用した補充学習の質の向上
- 学校の補充学習体制の構築とひまわり学習塾の充実

＜学力向上につながる家庭・地域との連携＞

- 家庭学習の充実と学習習慣の形成

児童生徒の実態，地域の実情，教職員の年齢層や経験年数など，各学校がおかれて
いる状況は様々に異なります。したがって，全てのことを全市で一斉に取り組むこと
は，効果的ではありません。学校の実情に応じて，校長が主体的に学校マネジメント
を展開していく必要があります。

本アクションプランに示している「学校等の取組」については，学校の実情に
て，具体的な手だてを構想し，重点化を図り，効率的に取り組んでほしいと思
います。

【 体 力 向 上 の 取 組 】



アクションプラン第2ステージの指標
 ((仮称)新・北九州市子どもの未来をひらく教育プランより)

【 学 力 向 上 の 指 標 】

◎ 重点指標

現状値の(※)は、平成29年度数値

指 標			現状値	目標	考え方
			平成30年度	平成35年度	
教科に関する調査の平均正答率全国比 《全国学力・学習状況調査》	小6	実績	98%	100%	学力の向上
	中3	実績	97%	100%	
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、全く読書をしていない児童生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》	小6	実績	22.7%	18.0%	読書週間の定着
		国(実績)	18.7%		
	中3	実績	38.8%	35.0%	
		国(実績)	32.9%		
中学校卒業段階で英検3級程度(C E F R 1)以上の生徒の割合 《文科省：英語教育実施状況調査》	実績	43.7%(※)	50%	英語教育の推進	
	国(実績)	40.7%(※)			

○ 参考指標

現状値の(※)は、平成29年度数値

指 標			現状値	目標	考え方
			平成30年度	平成35年度	
授業で学級やグループで話し合う活動が行われていたと回答した児童生徒の割合 《北九州市学力状況調査》	小5	実績	83.9%	前年以上	「わかる授業」づくり
	中2	実績	80.8%	前年以上	
授業の最後に学習したことを振り返る活動が行われていたと回答した児童生徒の割合 《北九州市学力状況調査》	小5	実績	79.7%	前年以上	「わかる授業」づくり
	中2	実績	73.6%	前年以上	
授業以外(月～金曜日)の学習時間が1時間以上の児童生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》	小6	実績	58.1%	全国平均以上	学習習慣の定着
		国(実績)	66.2%		
	中3	実績	59.3%	全国平均以上	
		国(実績)	70.6%		
英検準1級以上等を取得している教員の割合(中学校英語担当教員) 《文科省：英語教育実施状況調査》	実績	30.4%(※)	全国平均以上	英語教育の推進	
	国(実績)	33.6%(※)			

ここで示された指標は、市全体で目指す値を示しています。各校においては、スクールプランを活用し、実態に応じた達成目標と具体的な指標を設定し、その実現に向けて主体的に取り組むを推進してください。

【 体 力 向 上 の 指 標 】

◎ 重点指標

指 標			現状値	目標	考え方
			平成30年度	平成35年度	
全国体力・運動能力の実技結果 全国平均値以上の項目の割合 《全国体力・運動能力、運動習慣等調査》	小5 男子	実績	87.5% (7/8種目)	100.0% (8/8種目)	体力の 向上
	小5 女子	実績	87.5% (7/8種目)	100.0% (8/8種目)	
	中2 男子	実績	88.9% (8/9種目)	100.0% (9/9種目)	
	中2 女子	実績	77.7% (7/9種目)	100.0% (9/9種目)	
体育・保健体育が楽しいと思う 児童生徒の割合 《全国体力・運動能力、運動習慣等調査》	小学校 男子	実績	92.9%	全国平均以上	運動習慣 の 定着
		国(実績)	94.6%		
	小学校 女子	実績	89.5%	全国平均以上	
		国(実績)	90.7%		
	中学校 男子	実績	89.5%	全国平均以上	
		国(実績)	89.3%		
	中学校 女子	実績	85.4%	全国平均以上	
		国(実績)	84.4%		

○ 参考指標

現状値の(※)は、平成29年度数値

指 標			現状値	目標	考え方
			平成30年度	平成35年度	
1週間に60分以上運動する児童 生徒の割合 《全国体力・運動能力、運動習慣等調査》	小5 男子	実績	91.6%	前年度以上	運動習慣 の 定着
		国(実績)	92.8%		
	小5 女子	実績	87.1%	前年度以上	
		国(実績)	86.8%		
	中2 男子	実績	91.1%	前年度以上	
		国(実績)	93.5%		
	中2 女子	実績	74.1%	前年度以上	
		国(実績)	80.6%		
中学校の給食残食率 《教育委員会調査》	米飯	実績	4.7% (※)	前年度より減少	学校に おける 食育の推進
	パン	実績	5.6% (※)	前年度より減少	
	副食	実績	3.6% (※)	前年度より減少	
朝食を毎日「食べている」「どちらか と言えば食べている」と回答した児童 生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》	小6	実績	91.8%	前年度以上	家庭に おける 食育の推進
		国(実績)	94.5%		
	中3	実績	89.0%	前年度以上	
		国(実績)	91.9%		
肥満傾向児の割合 【肥満度20%以上】 《学校保健統計調査》	小5 男子	実績	10.1% (※)	前年度より減少	健康の 保持
		国(実績)	10.0% (※)		
	小5 女子	実績	8.0% (※)	前年度より減少	
		国(実績)	7.7% (※)		
痩身傾向児の割合 【肥満度▲20%以下】 《学校保健統計調査》	中学 女子	実績	3.6% (※)	前年度より減少	
		国(実績)	3.6% (※)		

※ 「(仮称)新・北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」は、平成31年の秋頃に、次期の計画が示される予定です。ここで示した指標は、現時点で検討されている案を示したものです。変更等があった場合には、後日改めてお知らせします。

アクションプラン 第1・第2ステージ対照表

I 学力向上

第1ステージ (H28～H30)	第2ステージ (H31～H33)
【柱1】 全校体制でのPDCAサイクルの確立	
PDCAサイクルに基づく 学校の組織的な取組の推進	PDCAサイクルに基づく 学校マネジメントの推進
<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査結果等に基づく「スクールプラン」の策定・実施・検証・改善 ○ 各学校における全校体制の確立 ○ 学力・体力向上学校訪問の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「スクールプラン」の策定・実施・検証・改善 ○ 「学校マネジメント支援訪問（仮称）」の実施
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力調査等の実施と児童生徒への指導の充実 ○ 教育センター研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種学力調査等を活用した実態把握と、指導の充実
<ul style="list-style-type: none"> ○ シンポジウム・懇談会等の開催 ○ 「北九州市学力向上だより」による情報提供 ○ 学力・体力向上講習会の充実 	柱2へ統合
学力・体力向上策をつなぐ教育委員会の体制の確立	廃止
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力・体力向上を推進する教育委員会内の組織の強化 ○ 他自治体との情報交換体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北九州市教育委員会人材育成基本方針に基づく取組 ○ 県内外・市内視察の実施

【柱2】 指導力向上のための日々の継続的な取組	
よい授業イメージの共有と、授業を「行う・見る・語り合う・振り返る」活動の日々の継続的な実践	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 全員研修会及び学校大好きオンリーワン校の公開授業の活用 ○ 『『わかる授業』づくり5つのポイント』のリーフレット及び点検シートの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業改善支援訪問の実施 ○ 研修体制の見直し ○ 『『わかる授業』づくり5つのポイント』の質の向上を図る研修の実施
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業力向上ステップアップ事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上推進教員の活用 ・ 単元末テスト及び定期考査の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力・体力向上推進教員の活用 ○ 単元末テスト及び定期考査の改善
<ul style="list-style-type: none"> ○ 動画を活用したWebによる研修の活用 ○ 「教師のしおり」の活用 ○ 総合的な学習の時間、特別活動、道徳教育の充実やアクティブ・ラーニング等を推進するための資料等の活用 ○ 教育研究論文の部門等の見直し ○ 授業づくり共同研究の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育センターの機能の選択と集中
—	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「中学校外国語科」及び「算数・数学科」における取組
教育活動の一層の充実のための取組	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校図書館教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校図書館教育の充実と子ども図書館との連携 ○ 大学等の研究機関との連携
—	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校におけるICT環境の充実
<ul style="list-style-type: none"> ○ ICTの活用と英語教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本市シビックプライドの醸成 ○ 部活動休養日を活用した研修機会の確保
—	

【柱3】学力定着に向けた協働的な取組	【柱3】小中9年間を見通した、児童生徒一人一人へのきめ細かな教育体制の確立
確かな学力を育む校種間の連携	校種間連携・特別支援教育の推進
○ 小中連携の充実	○ スクールプランを基にした、中学校区での目標・取組等の共有
○ 指導方法工夫改善教員等の充実	○ 小学校における専科指導の充実
○ 保幼小連携の充実	○ 学校支援講師の活用
—	○ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続
児童生徒一人一人へのきめ細かな教育の確立	○ 特別な支援を必要とする児童生徒への支援
児童生徒一人一人へのきめ細かな教育の確立	補充学習システムの確立と質の向上
○ 学力定着のための学校独自の取組の組織的実施	○ 北九州市学力定着サポートシステムを活用した補充学習の質の向上
○ 学校との連携等による子どもひまわり学習塾の充実	○ 学校の補充学習体制の構築とひまわり学習塾の充実
学力向上につながる家庭・地域との連携	
○ 家庭学習の指導の充実	○ 家庭学習の充実と学習習慣の形成
○ 乳幼児期からの望ましい生活習慣づくりなど学びの基盤づくりの取組	

II 体力向上

第1ステージ (H28～H30)	第2ステージ (H31～H33)
【柱1】 全校体制でのPDCAサイクルの確立	
測定についての正しい理解に基づく、新体力テストの全学年・全種目実施による体力の実態把握	新体力テストの全学年・全種目での実施と授業への反映
○ 新体力テストの全学年・全種目での実施	○ 新体力テストの全学年・全種目での実施
調査結果に基づく、スクールプランの策定・実行・検証・改善と家庭への調査結果の提供	○ 新体力テストの調査結果を活用した授業改善と運動習慣の形成
○ PDCAサイクルの充実	柱2へ統合
○ 好事例を参考にした取組 ・ 近隣の高校・大学との連携・協力による実施 等	
○ 家庭への調査結果の提供	柱3へ統合
体力・学力向上策をつなぐ教育委員会内の体制の確立	○ 体力向上に係る教科等教育研究部会の活性化
○ 体力・学力向上に関する施策を実施する組織の創設	
○ 他自治体との情報交換体制の構築	

【柱2】 学校での授業の充実と運動習慣の確立	【柱2】 指導力向上のための日々の継続的な取組
体育・保健体育科授業の準備運動等での「北九州市体力向上プログラム」の活用	運動習慣の二極化に対応した、運動好きな子どもを育てる授業実践
○ 「北九州市体力向上プログラム」の活用	○ 楽しみながら身に付ける体育・保健体育科の授業の充実 ○ 小学校における体育専科指導教員の配置・活用
楽しみながら身に付ける体育・保健体育科授業の構築	体力向上に関わる教職員の資質能力の向上
○ 授業観察シート等を活用した授業参観 ○ 言語活動の充実	○ 県内外・市内視察や研修の実施 ○ 体力の向上に係る教育環境の充実 ○ 高等学校・大学等との連携
「1校1取組」による年間を通じた運動習慣の確立	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">柱3へ統合</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">廃止（県の取組に移行）</div>
○ 「北九っ子体力向上シート」「体力アップシート」等の活用	
○ スポコン広場等への取組	

【柱3】 生活習慣・運動習慣の確立に向けた協働的な取組	【柱3】 生活習慣・運動習慣の確立に向けた取組
「早寝・早起き・朝ごはん運動」、 「ケータイ・スマホ夜10時オフ」の推進	健康な生活習慣の確立へ向けた取組
○ 家庭・地域と連携した、基本的な生活習慣の改善	○ 情報通信機器等の急速な発展・普及に対応した取組
保健学習の指導の充実による健康3原則の正しい理解と家庭における実践	○ 健康教育に関する指導の充実
○ 保健・保健分野の授業における、健康3原則「運動」「食事」「休養・睡眠」についての内容の確実な習得	
—	○ 適正な部活動運営の取組
家庭・地域において、 運動を「する・見る・話す」機会づくりのすすめ	年間を通じた運動習慣の確立
○ 家族と子どもと一緒に運動やスポーツを「する・見る・話す」ことの重要性を啓発	○ 「北九っ子体力向上シート」の活用、授業以外の運動の機会と場の設定
—	関係機関等との連携
	○ 家庭・地域に対する効果的な情報提供の推進 ○ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続の徹底
	豊かなスポーツライフを実現する素地の育成
	○ オリンピック・パラリンピック教育等の充実